

特別講演会の概要

開催日時 平成28年3月13日（日）
11:00～、14:00～

講演者 東海旅客鉄道株式会社
相談役 須田 寛氏

テーマ 文化・観光から見た鉄道施設や車両の保存

概要

まず国鉄末期から、今日のリニア・鉄道館に至る博物館建設計画が具体化するまでの経緯をお話し頂きました。

- ・国鉄本社は蒸気機関車を保存すれば十分であり、それ以外の車種は用途が無くなれば早急に廃車解体して財産から整理すべきという、意見が多かったのです。
- ・相談役は昭和56年に国鉄名古屋鉄道管理局長に着任した時点から、(蒸気機関車以外で)残すべき車両を選び、美濃太田などの車両基地や浜松工場、各所に分散保管しました。
- ・JR東海発足後、貴重な車両を公開すべく平成3年に飯田線中部天竜駅構内に佐久間レールパークを開設しました。佐久間ダム建設時の貨物用側線跡を活用したものです。
- ・佐久間の気候は寒暖の差が大きく車両の傷みが進行していきました。その後、国鉄から承継した長期債務縮減などJR東海の経営の安定化を待ち、博物館建設を具体化しました。

相談役は、人々の交流を促進するという観点から「鉄道車両は文化財であり、また、産業観光資源でもある」と強調しました。この考えを元に、JR東海エリアを走行した実績がある車両を中心に展示車両を選定し、リニア・鉄道館を建設したと紹介しました。一方、重要文化財の指定を受けている鉄道車両は、現時点でわずか3車種のみであり、より多くの車種の指定を目指し、官民一体となって後世へ伝える取り組みが重要であると述べました。

さらに、リニア・鉄道館の展示車両を軸として、機関車、客車、電車、気動車に関し車種別の歴史経緯を紹介するとともに、展示車両それぞれの文化財的、技術的価値や保存までの流れを説明しました。

館内を見学する際、講演の内容を思い起こして頂ければ幸いであると締めくくりました。

